幼稚園教育の音楽活動と電子楽器の適用についての研究

---保育における自動演奏装置の活用の可能性ついて（第２報）---

Kindergarten Musical life vs.
the adaptability of lectronic Musical Instruments
The feasibility study for the introduction
of Electronic Musical Insutruments and divices
into the fields of child care and education

服部公一・川合貞子・草川和子・松嶋五百子
村木由紀子・片岡真弓・成松由奈・佐藤優子
Koh - ichi HATTORI, Teiko KAWAI, Mutsuko KUSAKAWA, Ihoko MATSUSHIMA, Yukiko MURAKI, Mayumi KATAOKA, Yuna NARIMATSU, Yuko SATOH

Ⅰ　はじめに

幼稚園の音楽活動において、ピアノは重要な関わりをもち、その存在はきわめて高い。しかし、保育者の中には保育者養成校に入って初めてピアノを学ぶ者もおり、豊かな音楽的表現で、歌や動きに合わせ自在に伴奏や即興をこなし、指導できる水準にまで達することを要求するのは難しく、それが現場の保育者に、かなりの負担になっていることも事実である。音楽的には生演奏に勝るものはなく、昨年の調査でも、保育の場では、生演奏志向が高いという結果が出た。しかし、そのことに固執せずに、音楽活動の中にピアノ自動演奏装置やピアノにないさまざまな機能をもった電子楽器を適時に導入することで、保育者の負担が軽減でき、その上、ある一定水準以上の質の音楽が提供できて、何よりも、それが保育内容の向上につながるのであれば、その適用効果はたいへん大きいと考える。

Ⅱ　研究の経過

第１報では、幼稚園における音楽活動と電子楽器、機器の導入について、他園（300園）へのアンケート調査を行い、保育現場での使用実態やその利用の可能性、保育者の意識を考察した。その結果、幼稚園では音楽活動の果たす役割は大変大きく、その中で使用される楽器として、ピアノ重視の傾向は強く、特に歌唱の伴奏楽器としての依存度が高かった。回答のあった園では、約3分の1園（38.0%）で電子オルガンが導入されていたが、自動伴奏装置（6.9%）、や自動演奏装置（1.7%）については、生演奏へのこだわりも多く、抵抗を示す回答が見られた。その導入に対しては前向きな意見が見られたが、実際の導入については、まだ非常に少ないというのが現状であった。

昨今、楽器の分野でも、さまざまな電子楽器が開発されるようになり、取捨選択に迷うほど、その進歩はめざましい。電子機器となると、なおさらである。

第2報となる今回は、電子楽器中で、自動演奏装置の効用を取り上げた。各クラスに、自動演奏装置の付いたオルガン、およびピアノを導入し、その装置が保育の中でどのように、活用されているか、その事例の研究発表である。

Ⅲ　研究の目的

音楽活動の活性化や保育内容向上のために、保育における自動演奏装置の活用の可能性と有効性を事例より検討する。

Ⅳ　研究の方法

本学附属幼稚園の各クラスに導入された自動演奏装置が、どのように保育に活用されているか、その状況を録画、観察記録し、それを検討した。

1　期間

2002年4月16日～2003年2月7日

保育実日数

3歳児：151日、4・5歳児：154日

2　対象・場所

本学附属幼稚園

あか組（3歳児）、きいろ組（3歳児）

あお組（4歳児）、みどり組（5歳児）

3　使用楽器

あか組・・学校用オルガンＳＥ4000（自動演奏装置付き）

きいろ組・・学校用オルガンＳＥ5000（自動演奏装置付き）

あお組、みどり組・ＹＡＭＡＨＡ　ＰＩＡＮＯ　ＰＬＡＹＥＲ（自動演奏装置付き）

4　記録方法

(1) 各クラスの壁に固定式ビデオを設置し、自動演奏装置使用時と生演奏による音楽活動、両場面のビデオ収録をする。

（2002年4月16日～2003年2月7日）事例数69場面（あか組9、きいろ組20、あお組20、みどり組20）

・左右自動の首振り状態の録画のため。録画方向が限定され、ズームなどの使用は不可能。これを補うため、ハンディビデオによる収録もとりいれた。

・自然な保育の状況を録画するため、特に記録日を設定せず、保育の流れの中で、録画可能な場面で収録するようにした。

(2) 自動演奏装置使用時と生演奏による音楽活動場面を、保育のねらい、場面状況、子どもの反応、感想など、事前に決めた記入方法で、観察記録をとる。記録日は特に設定せず、音楽活動の中で、担任が印象に残る場面や状況を記録する。事例記録数89場面（あか組17、きいろ組24、あお組27、みどり組21）

それぞれプラス面とマイナス面を考察し、自動演奏装置使用時については、各項目別に、事例としてまとめる。

(3) 1日の音楽活動チェック用紙に、自動演奏装置使用時、生演奏場面、双方の活動時間帯、活動形態を記入する。自動演奏装置が使われた場合、一日の中のどのような場面でどのような活動に利用されたかを毎日記録する。（2002年6月3日～2003年2月7日　保育実日数124日）また、生演奏については、担任と音楽担当の演奏の区別も記入した。

Ⅴ　自動演奏装置について

1　自動演奏装置付きピアノ、ピアノプレィヤーについて

製造開始年は1982年であるが、サイレント機能やアンサンブル機能の加わったサイレントアンサンブルピアノは、1995年より発売されているという。

主に、自宅学習、ピアノ指導のおいて、次のような目的で使われている。

・自己の演奏を録音再生することにより、客観的に評価し効率的な練習に活用する。

・伴奏用ソフト（市販品）を利用し、テンポ感、アンサンブル感覚の育成をはかる。

・移調機能により、ソルフェージュ指導に活用する。

購入層は、ピアノ学習者、指導者、教育機関などが主で、他にホテルやアミューズメント施設でのＢＧＭ、ＤＴＭの音源として、また個人

の趣味などに使用されるという。幼稚園の保育の場での使用は、昨年の調査結果にもあらわれているように、珍しいケースといえる。

発売側の販売方針としては、国内のピアノ市場の大半を占めるレッスン需要に応えるとともに、ピアノの新しい楽しみ方を提案できる商品として考えており、今後、より録音、再生精度を高め、プロフェッショナルなピアニストの厳しい評価にも応えられるような性能アップをはかり、コンピュータ、ネット社会に対応する新しい楽器として、付加価値を高める方向で開発をしたい意向である。このことからも、対象を、主に個人のピアノ消費者に考えているようで、今回の事例は、メーカー側にとっても使い方の新しい提案となろう。

2　使用機種の機能

①　あか組、きいろ組使用の学校用オルガンSE4000、5000の機能

・移調
・テンポの変更
・リズム機能（サンバ、マーチ等）SE4000は内臓、SE5000はFD使用で可能
・再生音量の調節
・音色（GM音色218種類）
・リピート機能（・曲の一部を繰り返し聴く・1曲・全曲）

＜保育に使った機能の良さ＞

・子どもの声域に伴奏が合わないとき簡単に移調ができる。
・音色が豊富なので、イマジネーションが広がる。
・リズム機能を使いながら、伴奏を弾くと、のりがよくなり、いつもと違った雰囲気が味わえる。
・ＢＧＭとして使う時、音量の調節できるので、便利である。
・新しい曲を覚えたり、踊りの時リピート機能で何度も、聴ける。

②　あお組、みどり組使用のＹＡＭＡＨＡピアノプレイヤーの機能

・移調
・テンポの変更
・再生音量の調節
・MIDI接続
・リピート機能（・曲の一部を繰り返し聴く・1曲・全曲）
・パートキャンセル機能（片手練習や連弾曲の練習に有効）

③　上記のオルガンとピアノの違い

・オルガンは、音の種類が豊富であるが、奏法による音色の変化が望めない。また、ペダル機能を使う表現ができない。
・オルガンは、内蔵のリズムボックスやフロッピーを使用して、リズムアンサンブルが同時にできるが、ピアノはできない。
・ピアノは、自動演奏装置を使用しても、ピアノ本来の音色が損なわれず、臨場感が出て、心地よい。録音された音が、テープよりきれいである。

Ⅵ　記録の結果と考察

1　記録方法（1）（2）からの結果

自動演奏装置活用時の各クラスの記録を本報告の別資料（自動演奏機器活用時のＶＴＲ記録）にまとめた。

その結果から、自動演奏装置と生演奏時のプラス面とマイナス面と自動演奏装置活用時の状況、場面から考察した。

①　自動演奏装置活用時

＜プラス面＞

・歌唱指導やリズム遊び（身体表現）の場合、保育者の手がフリーになるので、動きが自由になり、保育者が子どもの表情や動きを見ながら、一緒に活動することができる。特に年少の場合、個々の動きに援助しながら対応できる良さがある。
・ペープサートやパネルシアターなど、歌いながら演じて遊ぶ際には、伴奏を耳にしながら演じる子どもの指導や助言ができる上、子どもと一緒に観ながらの指導

も可能である。

・速度、音量などが簡単に変えることができ、その場の雰囲気や習得過程のレベルに合わせた対応ができる。

・移調ができるため、すぐに子どもの声域に適応できる。楽器活動時も、演奏しやすい調に簡単に変えることができる。

・リピート機能を使うと、踊りやダンス、合奏を繰り返し楽しめる。ＢＧＭにも利用しやすい。

・日常生演奏で弾いている状態をそのまま録音して流せるので、生演奏場面との違和感が少ない。録音が、カセットデッキよりきれいである。

・既製のフロッピーを使うと、保育者の能力以上の音楽的な演奏を聴かせることができる。よりダイナミックで厚みのあるピアノ伴奏に一層音の広がりを味わうことができ、表現の幅が広がる。

・音量調節ができるので、今まで習った歌や新しく歌う曲を、昼食時や自由な遊びの時間に耳ざわりでない程度の音に調節してBGMとして流すことができる。

・正確なリズムと楽譜に忠実な演奏が可能になるので、子どもが聴いたり、合奏したりする際に、確かな音を与える上で重宝する。

・録音した伴奏が使えることから、保育者はミスのない、本人の最良の演奏の伴奏を録音でき、子どもたちに聴かせることができる。そのことは保育者の演奏能力の向上にも効果的である。

・トラブルや個と関わる必要が生じた場合には、全体の流れを止めないで済む。ＢＧＭで流すと、他の子どもたちは聴いたり、歌いながら待つことができる。

・子どもたちで操作もできるので、自由な時間に、好きな曲を選択し、歌ったり、曲に合わせて合奏をしたり、繰り返し楽しんで聴くなど、保育者が関りながらも子どもの自発的な活動に発展できる。

＜マイナス面＞

・歌の場合、子どもの微妙な間や呼吸に即座に合わせられない。途中で止めて指導する時、部分的な再生に手間どる。

・機器の操作に馴れるまでに時間がかかる。スタンバイして、操作にもたつくと歌いだしのタイミングや意欲をそぐことになる。（馴れるとかなり解決する）

・停止操作をする時に音楽の流れが機械的に途切れてしまう印象がある。

・歌いなおしたい時、途中からすぐ音が出ないので最初から歌うことになる。巻き戻しや早送りもできるが、その間で子どもたちのノリを損ねることがある。

・前奏がないと曲の始まりがあわせにくい。

・機械的なので心情面が希薄になりやすい。（保育者が、表情豊かに対面することで補える）

・ギター、シンセサイザー、キーボードのように、装置を簡単に移動することができない。活動場所が、限定される。（ピアノやオルガンの生演奏でも同様である）

・場に対応した即興演奏が不可能である。（即興演奏が可能なためには、生演奏でも相当の技術を必要とする。）

・コスト的にまだ、安価といえない。

②　生演奏での伴奏時

＜プラス面＞

・子どもたちの息使いや表現上の微妙な間を感じた演奏ができる。

・演奏者と一体感が感じられる。

・機械的でないあたたかさ、人間味が聴覚的、視覚的にも感じられる。

・途中で、止めたり、繰り返したりなど、指示や指導が即座にできる。

・リアルタイムの音で、演奏者のその時の感情が表現できる。

・子どものたちの反応に合わせ、微妙にテンポを変えたり、旋律だけ弾いたり、伴

奏部分だけを弾くなどの臨機応変の対応ができる。

・センスと力量があれば、音楽的な演奏が聴ける。

・即興の技量があれば、即興的に変化のある伴奏や音の援助ができる。

＜マイナス面＞

・演奏によほど余裕がないと、譜面にばかり目線がいって、子どもたち個々への気配りができない上、全体への対応も難しい。

・音楽的な演奏、感動を与える演奏にはそれ相当のセンスと技量が必要である。

・歌の指導の場合、保育者が伴奏しながら、子どもたちを見て、口元をはっきり開けながら、表情豊かにうたうことは、暗譜していないと大変難しい。

・特に、アップライトピアノでの伴奏は、前面の視界が遮られ、子どもたちを見ながらは弾き難い。

・演奏中は、保育者が体を動かすことができないことから、個々にかかわったり、動きのある活動の時には、子どもたちへの対応が難しくなる。

・子どもたちの声域にあわせたり、器楽合奏などで、演奏しやすい調に移調することが難しい。

・いつもミスのない演奏をしたり、レベルの高い伴奏をするには、日頃から相当量の練習が必要があり、相当熟達でもしてない限り、保育者には大変な負担になる。

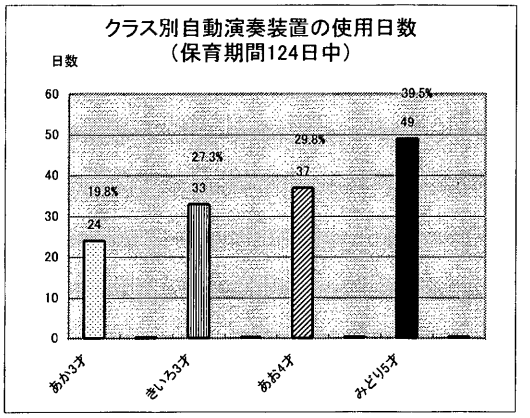
・現実問題として、選曲が、子ども中心でなく、保育者が自分の弾ける曲の中から選ぶ傾向が出てくる。

2　記録方法（3）からの結果と考察

①　自動演奏装置の使用状況

（表１（巻末）／図１参照）

図１



2002年6月3日～2003年2月7日　3歳児保育実日数、121日のうち自動演奏装置使用日数は、あか組24日（19. 8%）きいろ組33日（27.3%）であった。4, 5歳児保育実日数124日のうち、あお組37日（29.8%）みどり組49日（39.5%）4組平均35.8日（29.2%）であった。自動演奏装置の使用のべ回数は、あか組34回、きいろ組37回、あお組40回、みどり組63回、4組合計174回であった。このことは、保育実日数124日の中で、園の中で、どこかのクラスから比率1.40の割合で、自動演奏装置の音が流れていた事を意味する数字であり、保育の中、かなりの回数上使われていたことが分かる。また、担任の使用意思にもよると思うが、クラスの年齢が上がるほど使用日数が増える傾向にあった。（年長の自動演奏装置の使用回数は63回と際立つって高い）これはそれぞれの保育内容と関係していると思われる。3歳児に比べ、年中、年長になるほど、一斉的な保育での歌や踊りなどの表現活動がより可能であったために、自動演奏装置の利用場面が多かったことが考えられる。自動演奏装置を使いこなすのに時間がかかるデメリットを考え、慣れたと思われる12月、1月の使用状況（表2）を見ると、4クラスの自動演奏装置使用のべ回数が12月保育実日数15に対し、28回（比率1.87）、1月保育実日数14に対し、29回（比率2.07）になり、調査期間全体の比率1.40より高く、12月、1月になると、自動演奏装置の利用はより多くな

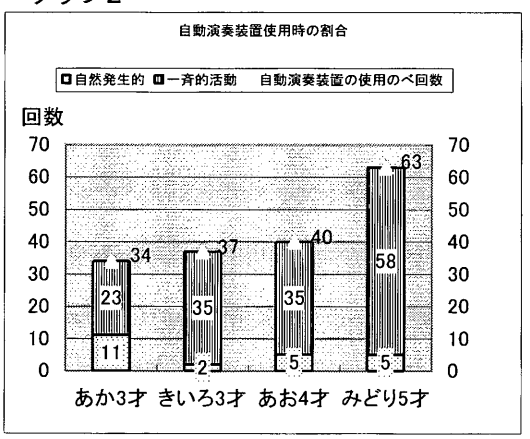
り、日常的に使われるようになったことが検証された。

表２

	総合計		12月		1月	
		比率(%)	回数	比率	回数	比率
保育実日数（日）	124	1.40	15	1.87	14	2.07
のべ回数（回）	174	100%	28	100%	29	100%
自動演奏装置の使用形態						
歌	103	59.2%	16	57.1%	21	72.4%
器楽	30	17.2%	8	28.6%	5	17.2%
身体表現	14	8.0%	1	3.6%	0	0%
その他	7	4.0%	0	0%	0	0%
BGM	20	11.5%	3	10.7%	3	10.3%

② 自動演奏装置がどのような時使用されているか（表１(巻末)／図２参照）

グラフ２



自動演奏装置使用のべ回数が、園の生活のどのような場で使われているかは、表１の通りである。どのクラスでも一斉的な活動の時に使用が多く、記録からは降園時の一斉活動が多かった。

③ ・自動演奏装置の使用形態
（表３(巻末)／図３－ａ、ｂ参照）

図３－ａ

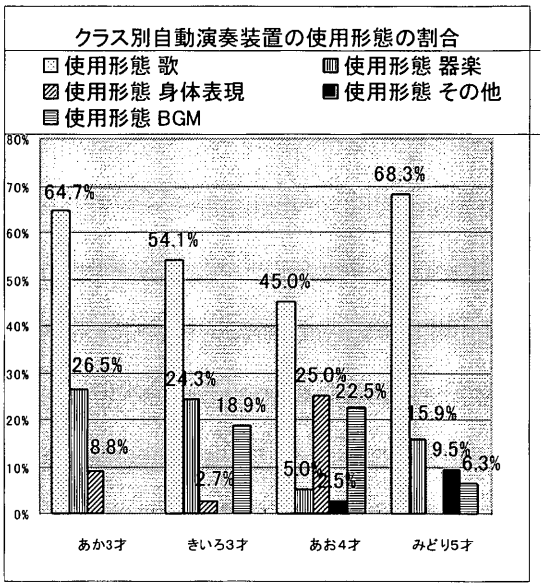
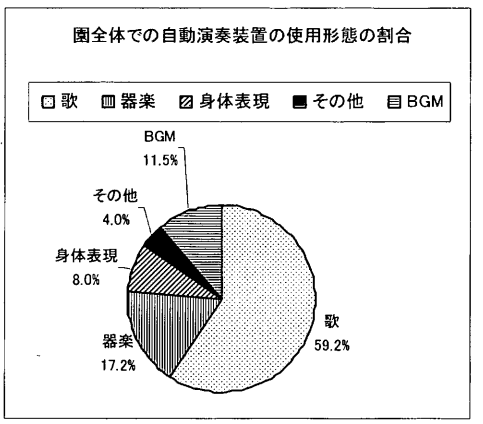


図３－ｂ



自動演奏装置使用のべ回数がどのような活動の時使われたかを表わす使用形態では、4組全体では、歌（59.2%）を歌う時の伴奏が一番多く、二番目が器楽（17.2%）であり、BGM（11.5%）、身体表現（8.0%）、その他（4.0%）といった結果であった。どのクラスもやはり歌の時間に一番使われ、あお組以外の三組は、器楽が二番目であった。あお組は、器楽（5.0%）よりも、身

体表現（25.0%）の時やBGM（22.5%）として多く使われている。

④　自動演奏装置の使用と生演奏の伴奏との割合（表４(巻末)／図４－ａ、ｂ参照）

図４－ａ

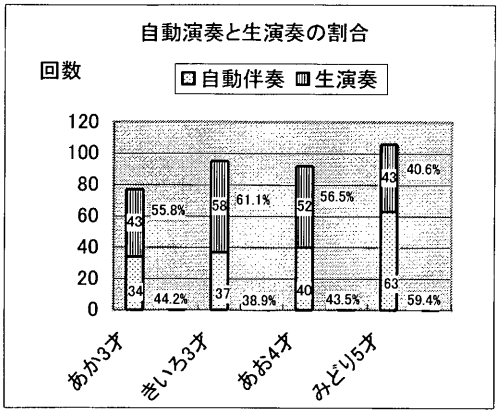
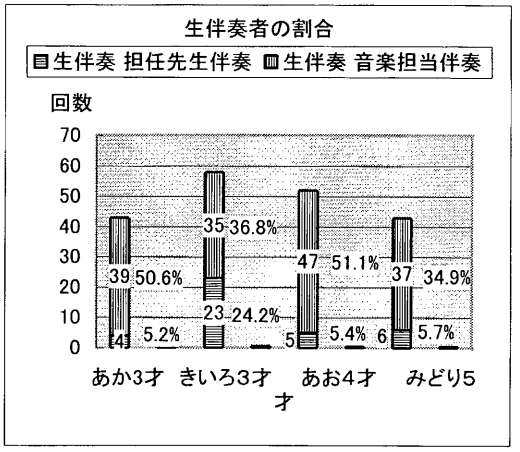


図４－ｂ



以上のことから、自動演奏装置が良く使われたことがわかったが、生演奏も十分にその良さ、大切さが認識されているので、保育の中、特に伴奏においては良く弾かれている。伴奏のべ回数370回のうち自動演奏装置使用が174回（47.0%）、生伴奏が196回（53,0%）であった。本園では、担任以外に音楽担当の保育者がクラスに加わって音楽活動の充実をめざしている。そのため、音楽担当の保育者が、伴奏を担当するケースが多く（42.7%）担任が弾く方が少ない（10.3%）。担任が指導しながら、音楽担当の先生が伴奏をするといった形態がよくとられており、その臨場感のためにも、その状況で音楽担当の保育者が録音されることが多い。特に、あお組については、音楽担当の保育者が副担任となっているために、降園前の一斉的な活動で生演奏の伴奏することが多く、より高い数字（47回）が出たといえよう。生演奏のほうが、子どもたちにすぐ対応できて、即興的な音楽活動により適している。要は、それぞれの良さをT・P・Oにあわせて、いかに臨機応変に使い分けることができるのが大切であると考える。

3　全体の考察

以上の結果から、また、ビデオの映像からも、本園では自動演奏装置の活用が、日常的なこととなり、音楽活動での大切な援助者のような役割を果たしていることが、理解できよう。保育者たちがこの装置に慣れるに従い、音楽活動上の、必要不可欠な装置になり、その使用方法も多岐にわたってきている。生演奏の即興性やその音楽的即応性に比べると、自動演奏には多少のデメリットがあるものの、使い方次第では、保育内容の向上や音楽活動の活性化に有効であることが、VTRの子どもたちのいきいきとした表情や姿からも立証されたといえよう。特に、歌や動きのある場面では、保育者が楽器の演奏から離れて、子どもたちの中に入って、指導や援助ができることや子どもたちが自主的な活動に自由に使える便利さなどは、そのほかの欠点を補っても余りあるメリットであることが分かった。しかし本園では、保育中は自動演奏装置にだけに頼るのではなく、保育中に生演奏でもかなりの割合で行われているのも事実である。生演奏がよさを出すには、保育者に、一定以上のかなりのレベルの演奏能力が必要であり、それを補うために、自動演奏装置ならではのメリットを活用するという位置づけを自動演奏装置に

行う必要があろう。

Ⅶ　おわりに

本研究の中で、当初は自動演奏装置を使用することにとまどいを見せ、ピアノを自分で「弾かない」ことへの罪悪感すら持っていた保育者たちが、取扱いを習熟するに従って、日常的に、抵抗無く使うようになり、さらに、研究の過程で互いの得意分野を補い合う体制が自然にできて、保育者と幼児が楽しさを共有しあう幼稚園の音楽活動の本来の目的実現に、より近づく一歩になった。このことは、本研究の中心的存在であり、作曲家、園長でもある服部が、日頃より提唱している「幼稚園教育の原点は歌うこと」という考え方を実証することでも大きな成果の一助になった。自動演奏装置の使用方法、状況、場面については、まだまだ様々な可能性が考えられ、感性の発達の著しい幼児期に与える影響は大きいので、今後もよりよい方法を研究してゆくことが大切であると考える。

次年度は電子機器を含め、移動可能な電子楽器の保育への導入の試みを研究テーマと考えている。

本研究は、研究の当初より、本学非常勤講師の笠井かほる氏の参加協力を得た。ここに同氏への感謝を申し添える。

＜参考文献、論文＞

・「幼稚園教育の音楽活動と電子楽器の適用についての研究」2002
東京家政大学生活科学研究所研究報告第25集
服部公一・川合貞子・草川和子・松嶋五百子
村木由紀子・片岡真弓・成松由奈・佐藤優子
・「保育における音楽活動と電子楽器・機器の導入について」2001
日本保育学会誌第54回　笠井かほる
・「現場の先生のための電子楽器活用法」龍吟社.
リズム．エコーズ　田中健次1990

〈表1〉自動演奏装置の使用時

2002/6/3-2003/2/7		あか3才		きいろ3才		あお4才		みどり5才		平均	計	
		回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率		計	比率
保育実日数		121	100.0%	121	100.0%	124	100.0%	124	100.0%	122.5日	490	100.0%
自動演奏装置使用日数		24	19.8%	33	27.3%	37	29.8%	49	39.5%	35.8日	143	29.2%
自動演奏装置の使用のべ回数		34	100.0%	37	100.0%	40	100.0%	63	100.0%	43.5回	174	100.0%
使用時	自然発生的(自由保育)	11	32.4%	2	5.4%	5	12.5%	5	7.9%	5.8回	23	13.2%
	一斉的活動	23	67.6%	35	94.6%	35	87.5%	58	92.1%	37.8回	151	86.8%

〈表3〉自動演奏装置の使用形態

2002/6/3-2003/2/7		あか3才		きいろ3才		あお4才		みどり5才		計	
		回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率
保育実日数		121		121		124		124		490	
自動演奏装置使用日数		24	19.8%	33	27.3%	37	29.8%	49	39.5%	143	29.2%
自動演奏装置の使用のべ回数		34	100.0%	37	100.0%	40	100.0%	63	100.0%	174	100.0%
使用形態	歌	22	64.7%	20	54.1%	18	45.0%	43	68.3%	103	59.2%
	器楽	9	26.5%	9	24.3%	2	5.0%	10	15.9%	30	17.2%
	身体表現	3	8.8%	1	2.7%	10	25.0%	0	0.0%	14	8.0%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	1	2.5%	6	9.5%	7	4.0%
	BGM	0	0.0%	7	18.9%	9	22.5%	4	6.3%	20	11.5%

〈表4〉自動演奏装置のついた楽器の使用度

自動演奏装置付	学校用オルガン				ピアノ					
	あか3才		きいろ3才		あお4才		みどり5才		計	
2002/6/3-2003/2/7	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率	回数	比率
保育実日数	121		121		124		124		490	
伴奏実日数	58	47.9%	55	45.5%	51	41.1%	85	68.5%	249	50.8%
伴奏のべ回数	77	100.0%	95	100.0%	92	100.0%	106	100.0%	370	100.0%
自動伴奏	34	44.2%	37	38.9%	40	43.5%	63	59.4%	174	47.0%
担任先生伴奏	4	5.2%	23	24.2%	5	5.4%	6	5.7%	38	196 53.0%
音楽担当伴奏	39	50.6%	35	36.8%	47	51.1%	37	34.9%	158	

自動演奏機器活用時のＶＴＲ記録

みどり組

①番号②日付③場面④状況	曲名	ねらい	メリット	デメリット
①1 ②4／16 ③クラスのみんなで歌う ④帰りの会・「ハッピーチルドレン」は年中の頃から歌っている曲	・おつかいありさん ・ハッピーチルドレン	・その日一部の子どもたちと蟻探しを楽しんだ。身近にした体験に関する歌を歌うことで、蟻への関心が他の子どもたち広がることを願って。 ・リズムのいい曲で子どもたちの方から歌の合間に手拍子を入れる様子が見られた。歌にも慣れてのきたので、少し違ったリズムを取りながら曲を楽しもうと思った。	・「おつかいありさん」－担任もリラックスして、身体をリズムに乗せて楽しむことができる。 ・笑顔で曲に合わせて左右に身体を揺らして楽しむ子がいる。（T 子、R 子、R 奈） ・「おつかいありさん」－よく知っている歌だが、2番は歌詞の覚えがあいまいなため、途端に担任の口元を見て歌う子が増える。 ・「ハッピーチルドレン」－担任の手拍子を見ながら真似る子が多い。 ・自分が弾くのではないことでゆとりがあり、曲の合間に次の歌詞を伝えることができる。	・電源を入れてからしばらくしないと選曲できないのでその間子どもたちがざわざわと落ちつかなくなってしまう。なかには待ちきれず先にロずさんでいる子もいる。D 男は担任が操作しているようすを見ている。 ・曲が終わるたびに席を立つ必要があり、落ちつかない。 ・歌詞の間違いを直すたびに、途中からやり直すことができず一番から歌うようになってしまう。
①2 ②4／25 ③クラスのみんなで歌う ④帰りの会 こいのぼりがよく泳いでいた子どもたちもその様子をテラスから見ながら口ずさんでいた。	・こいのぼり	・こいのぼりが幼稚園にあがったのを受けて、季節感のある歌を歌う。	・聞いたことはあるが歌詞はうろ覚えの状態。担任の口の動きを後から追うようにして歌う子が多い。（まごい、ひごい） ・中心に座る保育者の方を見つめている子が多い	・操作に手間取り（1分間）子どもたちがざわつき落ちつかなくなる。（こいのぼりの前に歌ったおつかいありさんの時に） ・録音してある曲のテンポが速すぎたように感じる。 ・担任がテンポダウンの操作に時間がかかっている間、子ども達が落ち着かない状態になる。
①3 ②5／7 ③クラスのみんなで歌う ④帰りの会・母の日が近いことで、お母さんへのプレゼントなどの話し合いをしたあと。	・おかあさん	・母の日が近いこともあり、子どもたちからお母さんに歌声のプレゼントをできたらいいなと思い。 ・また、これまでとは違ったスローなテンポできれいな曲のゆったりとした雰囲気を感じてほしい。	・「おかあさん」－原曲の音域が高い。まずはそのままの歌を聞かせたい思いから音程を調整せず歌った。高い音にのどがしまりそうになって歌っている子もいる。 ・歌えないながらも担任の歌声に身体を揺らしたり（敦美、畠山、健太郎）じっと見つめたりしながら（遥、）聞いている子がいる。 ・はじめての曲だが、伴奏がついていることで、曲の全体をイメージしやすくメロディーの進行の見通しがつきやすいよう。 ・「おかあさんにうたってあげたらいいんじゃない？」早瑛のひとこと ・高い音域だったが、ピアノを弾くプレッシャーがないので、力が入らずのびのびと声が出せた。	
①4 ②5／16 ③みんなで歌う・身体表現する ④帰りの会・「だんごむしのうた」は子どもたちが作詞し、保育者が伴奏をつけたもの。何度か歌ってみている。「月火水木金土日の歌」は以前から歌詞に合わせて身体を動かしながら歌う子がいたため、前日（？）に振り付けを入れながら歌ったりしていた。	・だんごむしのうた ・月火水木金土日のうた	・「だんご…」みんなの手作りの歌を楽しく歌う ・「月火…」歌詞に合わせて身体表現することを楽しみながら、伸びやかに歌う。 ・木曜日に借りて、水曜日に返すという絵本貸しだしがはじまり、子どもたちの生活に「曜日」の感覚が身近になったことを受けて、楽しく歌うことで意識が生まれたらと思いこれまでに何度か歌っている。 ・また、月曜「げらげら」、火曜「かっかっか」など言葉遊び感覚の歌詞の楽しさを味わってほしいと願って。	・「月火水木金土日の歌」 ・市販のＦＤのため伴奏の音の重なりに厚みがあり、曜日ごとに雰囲気を変えて演奏してある。子どもたちもそのへんを感じ取っているのか、土曜日のところでは曲が力強い音になっており、子どもたちも力をこめて掘る様子が見られる。 ・担任が一緒に身体を動かせることで、こうした表現に控えめになりがちなM子やR子、A子らがのびのびと踊り楽しんでいる。 ・あれほど豊かな伴奏は2人以上で弾かなければ表現できないだろう。またそれだけのピアノの技術も必要。しかし、市販のディスクをうまく使えば子どもたちにも気軽に素晴らしい音源を提供できる。	・「だんごむしのうた」 ・前奏を入れずに録音してあるため、子どもたちの歌い出しがそろわない。 ・スタート押してから演奏がはじまるまでの拍数が分からないので、前奏を入れていなかった曲が担任もいきなり歌うようになってしまった。生の伴奏なら前奏がなくても、「さんはい」などの合図で歌い出せる。
①5 ②5／27 ③踊り ④帰りの会・いつも一緒の友だちではなくても振り返った際に顔を合わせると「きゃー」っと喜びの声をあげる。ほとんどの子が満面の笑みで友だちと向かい合せになっている。	・ラウンドチェーン	・ダンスを通して友だちとの触れ合いを楽しむ。 ・音楽に合わせて身体を動かす楽しさを味わう。 ・関わりの薄い友だちとも踊ったり、手合わせ遊びをしたりするチャンスを得る事でこれからの新たな関わりのきっかけに。	・子どもたちは旋律がある事で踊る事をより楽しく感じている。（アカペラではこうもいかないだろう） ・少し高すぎで、子どもが最後のフレーズをうたいにくそうにしている ・曲が流れて、子どもたちが踊っている間を回りながら、握手のし方がわかっていない子や踊り方の手助けができる	・テンポと音程をとっさに合わせる事が困難で、1回1回音を出して確認してみなくては分からない。 ・前もっての準備をする必要あり。そうなると移調機能やテンポダウン機能は柔軟に対処できそうでそうできないとも考えられる。
①6 ②6／4 ③みんなで歌う ④帰りの会・生活習慣のパネルシアターに合わせて	・せっけんさん	・食中毒などの衛生に気をつけたい梅雨時の季節。手洗いうがいをしっかりする事を促すパネルシアターを見る。手洗いの時に楽しく口ずさむことができればと思い選曲。 ・パネルシアターという教材に子どもたちが触れる機会を作ることで、自分たちでパネルシアターを上演するきっかけになればと願って	・はじめて歌う子が多いので、担任の口元を見ている子がほとんど。歌わずに見ている子もいる。	・パネルシアターを見た後、すぐに歌い出せればよかったが、操作に時間がかかる。集中が途切れる感じがする。

①7 ②6／12 ③みんなで歌う ④帰りの会（午前保育）・午前保育の日で十分遊び込んでいないこともあってか、子どもたちの反応が鈍い。	・あめふりくまのこ	・梅雨の季節を迎えて、雨の日も多い。そんな天気に関連のある歌をと思い選曲。 ・ストーリー性のある歌なので、のちのちはパネルシアターなどを作って楽しみたい。	・伴奏がある事によって曲全体のゆったりした雰囲気は伝わりやすかったよう。	・途中感想のところで曲を切ったときに、「えーっ！」と不快さ口に出すがいた。ぶつっと切れ感じになんとなく違和感を覚えたのだろう。・よく知らない歌ということもあって、ぼーっと担任の顔を眺めている子が多い。 ・途中で曲を止めるときに、プツっときれるところが情緒がない。 ・3番から歌いたかったが、伴奏を途中から出すことができず、1番の伴奏に合わせて3番から歌った。
①8 ②6／13 ③いすとりゲーム ④帰りの会・遠足だったが雨で延期。天気が悪く外へ出られないこともあって子どもたちのエネルギーは発散し切れていない様子。	・子どもの歌のFD曲によってテンポアップ機能を使用）	・身体を動かすゲームを楽しむ事で遊んだ満足感を得て欲しい。	・タンブリンでストップの合図をかけられる。 ・これまで歌ったことのある曲を流すことができる。 ・（あめふりくまのこ、かみなりごろちゃん、てんとうむし） ・周りで見ている子の反応やゲーム中に起こるトラブルにすぐに対処できる。	・こどもたちの体の動きに合うような曲であれば、もっとバリエーションに富んだ動きが楽しめただろう。（スキップと途中で声をかけるが、曲の感じがスキップで合わせるのには適していなかった。）
①9 ②6／14 ③BGM ④昼食時	・子供の歌のFD	・現在歌っている曲をBGMとして流す事で、メロディーが自然と身体のなかに染み込んでいく事を願って。	・知っている曲を時々口ずさむ子がいる。（A子） ・頭を横に振ってリズムを取っている子もいる。	
①10 ②6／21 ③パネルシアター ④遊びの時間の中で・繰返し、遊びの中で子どもたち自身からパネルシアターに触れ合うことで、自分たちなりの演出方法を考えたり、見せるための工夫を出し合ったりしてほしい。	・あめふりくまのこ	・繰返し、遊びの中で子どもたち自身からパネルシアターに触れ合うことで、自分たちなりの演出方法を考えたり、見せるための工夫を出し合ったりしてほしい。	・C子、S子が演じ手。やっている本人たちがとても楽しそうに繰返し遊ぶ。 ・エンドレスで何度も曲が流れるので、何度も自分たちなりの動きを試して楽しんでいた。だんだんと見せるための動きがうまくなる。 ・お客が入れ替わりたちかわり見にくることができるので、周りで見ている子も演じ方を自然と覚えて行っている。 ・C子らが飽きて去った後も曲が流れていた事で、T子たちがチャレンジするようになる。（ビデオには映っていない） ・保育者もお客として参加することができ、演出の言葉かけをすることも可能。	
①11 ②7／8 ③手拍子・楽器でリズム打ち ④帰りの会・プールのあった日なので疲れているのか、いつもより以上にボーっとしている子もいる。	・たなばたを手拍子 ・あめふりくまのこをカスタ・タン	・手拍子の真似っこ ・ゆっくりした音楽のリズムに合わせて手拍子、カスタネットをたたく。	・担任の手元を見つめて真似る子がほとんど。 ・担任が子どもたちの前に座っていることで、いい緊張感があり、きちんと座っている子が多い。 ・首や身体を揺らしてリズムを感じている子が多い ・誰がリズムをとれていないか、ふざけている子は誰かなど、よく見ることができ、手を貸すことも可能	・担任がFDを用意する間に席を立つ子、隣の友だちと遊び始める子など集中力がきれて落ちつかなくなる。
①12 ②10／17 ③みんなで歌う ④帰りの会・「大きな古時計」はまだ歌い始めて2日目。「星がルンラン」途中で帰ってきた子どもたちの動きで集中力が切れた状態。「きのこ」を歌いたいというリクエストが起こり、言葉を受けて歌う	・大きな古時計 ・星がルンラン ・きのこ		・よく分からない歌でも担任の口元を見ながら後を追う様にして歌おうとする。 ・「星がルンラン」曲の雰囲気を感じた千文美が前奏に合せてバレリーナのような動きをする。 ・「きのこ」リズムのいい伴奏がきちんとついていることで子どもたちもより曲にのる事ができて、歌う楽しさを感じているよう。 ・気持ちにゆとりがあり歌詞を教えることができる。	・FDに入っている次の曲の頭が流れてしまい子どもがそれを捕らえてふざける。 ・「きのこ」FDを用意する間があり、すぐに歌いはじめたい子どもたちのタイミングに合わない。
①13 ②2／6 ③みんなで歌う・手拍子 ④帰りの会・	・カレンダーマーチ	・カレンダーマーチの途中に手拍子を入れて歌う経験をしてきたので、楽器を使ってリズムを打ちながら、4拍子を感じ取れるように	・タンタンタンタンという簡単なリズムだが、それに乗れない子もいる。その子たちも保育者に手を添えてもらうことで演奏に乗れる。 ・フリーで動けるので、一人一人の様子を見ながら手を貸すことができる。	
①14 ②2／7 ③楽器遊び ④朝、登園後すぐ・タンブリンを見つけた子が手に持ち、適当に打つことから始まった。リモコンを子どもたちに使わせてみる。	・歌のFD	・昨日タンブリンを全員にまわせなったので、関心のある子が自由に触れるようにピアノの前に楽器を置いておく。	・子どもたちがそれぞれ演奏したい曲を自分で選択し、リズムに乗って打てるのが楽しい。 ・楽器を使って遊びたい時に、子どもたちの欲求に合った曲が保育者がいなくても実際のピアノの音に合わせて演奏できる。	
①15 ②2／7 ③ペープサーサ ④保育中・新入園児招待日で披露する童謡のペープサートを係りの子どもたちが集まり練習している。	・もりのくまさん	・歌の新たな楽しみ方として、歌詞の内容を知って、それに合わせたお話しを作り、自分たちなりに演じてみせる経験。	・途中に演奏がはいることでメリハリがついて本番同様に練習することができる。お客さん役の子どもたちも一緒に歌って楽しんでいる。 ・やはり、リモコン操作が魅力。その役目をめぐってもめる。 ・自分たちで操作できることで何度も練習できる。 ・一緒に歌いながら、ペープサートの動かし方を見てアドバイスをすることができる。伴奏しながらではそこまで見る余裕はないだろう。	・リモコンの操作のし方を教えるが、機器が高いところにあり思うように操作することができない。リモコンに関心を持って、それを操作することが中心になる。みんなのフラストレーションのもと（うまく再生できない、自分に触らせてくれない等）になる。 ・人がピアノの前にいない状態で子どもが楽器をたたいていることに、人工的で冷たい感じもする。 ・3番から再び歌う時に一時停止してある部分に間奏が入っていないため、いきなり歌い出すことになり、歌い出しをしっかり覚えて歌うことができない。

あお組

①番号②日付③場面④状況	曲名	ねらい	メリット	デメリット
①1 ②5/20 ③歌 ④降園前の集まり・自動演奏ピアノを流すと、歌を歌ったり自由な動きをしている。 ・「ごっつんこ」と、「こっつんこ」の違いに気付くと、その言葉から蟻の動きをイメージして遊んでいる。	・おつかいありさん	・歌を通して身近な蟻に親しむ。 ・歌詞の違いに気付いて楽しんで歌う。	・身支度の時間に流すと、身支度を終えた子達は「この歌知っている！」と、次々と口ずさんだり手で蟻の形を作って身体を揺らしたり、隣の子と顔を見合わせて笑ったり、全体が揃うまでの間、楽しんで待てる。 ・自動演奏ピアノを止めて、担任が「こっつんこ」の部分を取り上げて、はっきり歌うようにすると、元に集中して見ている。中には、再度歌うとき歌詞を意識して歌う姿が見られる。 ・全体で集まった時、トラブルや個に関わる場面が出てきたとき、ＢＧＭとして流すと周りの子ども達は聞いたり歌ったりして待つことができる。 ・歌詞を伝えたい際は、演奏を停止し歌詞だけに集中でき、指導にメリハリが付けられる。担任も元を意識して伝えられる余裕があった。	・リモコンの電波がうまくとどかず、間延びする場面もあった。操作する位置によって変わるようだ。
①2 ②6/3 ③歌 ・Ｅ子、Ｙ男の２人は木の家という同じ場にいるが、互いに思い思いのイメージで動いている。 ・Ｅ子が「先生、見て！ミュージカル！」と踊り出すと、Ｙ男がその様子を見ている。	・チューリップ	・なりきって表現する楽しさを感じて欲しい。 ・イメージの世界を広げて友達と関わってほしい。	・曲が流れる事で、なりきる気持ちが豊かになったようだ。 ・音が流れる事で、なりきる楽しさや友達を意識する気持ちが高まる。	・好きな曲が終わると動きが止まり、ばらばらに散ってしまう。子どもが自分で操作できないため、自分たちの呼吸で動けないようだった。 ・装置のある保育室は空間が広く、Ｅ子にとっては落ち着かないようだった。場の変化で気持ちが冷めた部分もあったようだ。 ・遊びの始まった場で演奏できず、気持ちが続かないようだ。
①3 ②5/23 ③歌（名前紹介） ④降園前の集まり ・２人組のペアになって、順番に歌で自己紹介をする。 ・次に呼ばれる事を期待して座っている。	・はじめまして	・新しい友達を知る。	・紹介される事を構えてしまい、なかなか出たがらなかったりする子に対して、担任が横に付いていられるので、いくらか安心していられるようだ。 ・不安な子と一緒に歌える。	・曲に前奏がないため、歌い始めがスムーズにいかない担任の様子に子ども達は、なかなか一緒に歌うタイミングをはかれないでいるようだった。 ・フロッピーに入れる際、子ども達が歌い出しやすいような前奏を付けておくと良いと思われる。
①4 ②5/27 ③歌 ④降園前の集まり ・保育者がおたまじゃくし拾いにいった時の話をすると、自分が感じたおたまじゃくしについて、口々に話し始める。 ・おたまじゃくし拾いの際、Ｅ子が口ずさんだ歌を、担任が全体の前で歌う。	・おたまじゃくし	・日頃、親しんでいるおたまじゃくしの歌をうたう。	・担任の歌声をじっと聞いたり、口元を見つめている。２回目には一緒に口ずさむ子が見られる。 ・身支度をしながら「おたまじゃくし」と、最初のフレーズを口ずさむ姿が見られる。 ・Ｅ子が「私が作った歌だ！」と喜んでいる。 ・初めての歌では、担任の口元を集中して見ているので、担任が子ども達と対面で歌うことに歌に親しみやすいと思われた	
①5 ②6/24 ③歌 ④降園前の集まり ・雨の日に履く履き物のクイズをし、歌の紹介をする様子に「ながぐつだ！」と反応を示す。 ・初めて聞く歌に集中して聞いてる。	・ながぐつだーい	・季節を感じる歌に触れる。	・担任の歌う姿を見たり、声に集中している姿があり、 ・繰り返しの所を「～だーい」と真似る子が出てきた。 ・歌のテンポを感じて聞きながら手拍子をする子が現れると、次々と真似をして広まる。 ・初めての曲では、担任の顔が見える事で安心感につながるようで、集中して聞いたりリズムを感じて手拍子をする子が見られた。	
①6 ②7/12 ③体操 ④プール前に身体を動かす体操を通して、動物になりきったり担任と同じ動きをして遊んでいる。	・ジャンピングジャンプ	・歌に合わせて身体を動かす楽しさを感じる。 ・動物になりきって色々に表現しようとする。	・前で動いている担任を真似て自分の身体を動かす事を楽しんでいる。 ・担任が子どもの前で踊ることができ、子ども達も安心して真似る事ができるようだ。	・テンポが早く「早い！」と、言っている子もいる。 ・テンポの調節など、担任が途中で操作すると体操の動きが中断されてしまうので、前もって調節しておく必要あり。
①7 ②10/22 ③自然発生的な遊び・ペープサート ④数人の女児がおばけのペープサートを作り始める中、お客さんに見せたい気持ちが生まれた。 ・場を作る中で、劇の進行について色々なアイデアが出る。 ・劇が始まるまでの雰囲気作りとして“おばけなんてないさ”の曲を流す事になった ・リピート機能　使用	・お化けなんてないさ		・曲が流れると演じる子、観る子の表情がパッと明るくなり遊びへの意欲が高まった様子。 ・劇が始まるまで時間がかかった時にも、曲がある事で待っている子ども達が期待感を持てて楽しそうだった。 ・遊びのイメージを豊かにして、「劇をしたい！」「見に行きたい！」という意欲が湧きやすいと思った。 ・曲が流れる事で、演じる側と、観る側の遊びへの思いが一つになり、劇の手順ややりとりに大分行き違いがあったりしたにも関わらず、お互いが飽きずに過ごせたように思う。	・リピート機能にしたが、子どもが始めたい時に保育者が席を外していて、演奏を止められず保育者を呼びに来て流れが中断する場面もあった。 ・効果音など、自由に出せるフロッピーがあると便利。

①8 ②11／1 ③ダンス ④降園前の時間、皆で円形になった状態で座る。ダンスを紹介し、保育者同士が踊って見せると、「知ってる！」と、言いながら側の友達 と始める子がいる。 ・2人組になるよう声を掛け、一回踊ったらメンバーチェンジしながら繰り返す。	・白くまのジェンカ	・友達と一緒に同じ振り付けで踊り一体感を楽しむ。 ・曲に乗ってステップを踏む面白さを知る.	・知っている子と知らない子、また知っている子でもステップがあやふやな状態なので、保育者が踊る姿をじっくり見ることができるので不安少なく楽しめた様子が見られた。 ・□保育者は、歌いながら動きを指示できる余裕があったので、苦手な子やなかなかパートナーが探せない子のフォローにもまわれた。	・パートナーチェンジの時、原曲が流れると踊り出しそうになったり、曲がないと盛り上がりが冷めるように感じた。人がつなぎ部分にアレンジした曲を盛り込むことで、ダンス全体にメリハリがついたように思う。
①9 ②10／23 ③歌 ④降園前の集まり ・降園前の集まり。拾ってきたドングリでお話をしながら歌う。	・ドングリダンス	・普段、親しんでいる自然物の歌を楽しむ。 ・交互に歌うことで歌詞を知る。	・初めての歌だったので、保育者と子どもが対面できた事で、歌全体の流れを感じながら歌っていたように思われる。 ・子どもと保育者に分かれることができ、歌詞に集中して聞いているように感じた。 ・保育の歌い終わる姿や、合図を見てから子ども達だけで歌う部分を歌っていた。	
①10 ②11／20 ③ダンス ④降前の集まり ・事前に、ダンスをするという話をしておいたため、保育室に勢いよく集まってくる。 ・保育者の踊る様子を楽しそうに見ている子や。同時に身体を動かす子がいる。	・白くまのジェンカ	・友達と一緒に踊りを楽しむ。 ・クラスで一体になる面白さを感じる。	・知っている子が多く、曲が流れると友達とつながって踊り出す。 ・戸惑っている子も保育者の動きが見えることで、徐々に動きに乗って笑顔が見られた。 ・ジャンケンでスリルを味わいながら、徐々に長くなる事を楽しむ姿がある。 ・担任がジャンケンの相手探しの際、間に入ることができスムーズに流れることができたように思う。 ・担任が動きを示した歌詞を歌うことで、動きに不安のある子ども達のステップがスムーズになり、笑い声が大きくなる。	・じゃんけんになるまでのフレーズを感じて「まだ？」と指摘する子も見られた。 ・遊びの流れ上、曲を途中で切るようにしたが、リモコンがうまくはたらかず、待つうちにバラバラになる姿があった。 ・（じゃんけんの部分は、曲を止める）
①11 ②2／6 ③自然発生的な遊び・楽器遊び・ダンス ④楽器を持っていた子の中から、踊りに夢中になる子が出てくると、互いに「私は踊りね」「私は楽器ね」など、役割を分けて楽しむ姿が見られるようになる。	・おもちゃのチャチャチャ	・歌に合わせて身体を動かして遊ぶ。	・繰り返し1番を歌い踊りを楽しむR子。歌詞のない演奏のため、好きな部分、または知っている部分のみを繰り返すことができ、楽しんでいるようである。 ・それぞれに、友達と楽器や指揮者の役を交代し始め、踊る役を相談したり、遊びに変化を付けるようになる姿がある。 ・「ホテルの音楽会ね！」と、イメージがふくらむ言葉が聞こえるよう	・リピート機能で繰り返し楽しめるメリットもあるが、単調になり飽きてくる子が見られる。子ども達で操作し選べることで自主的な遊びになるようにも感じた。
①12 ②2／6 ③ダンス ④降園前の集まり ・を準備した状態で以前踊ったダンスを踊る。 ・はじめ、恥ずかしがって保育者の　動きを見ていた子も、盛り上がりになり皆が大声を出し始めると、一緒に加わる。	・アブラハム	・友達と一緒に踊りを楽しむ。 ・身体の部位を知る。	・保育者が目の前で踊ることで、動きを見ることができ活発に踊ることができたようだ。 ・楽しい空気になってくると、徐々に周りの子ども達も加わる姿がある。	

あか組

①番号②日付③場面④状況	曲名	ねらい	メリット	デメリット
①1 ②5/27 ③歌 ④・降園前の集まりの時間に	・かたつむり	・子ども達が親しみやすい歌を歌う。	・保育者が前にいて身振りしながら一緒に歌うことによって、ふざけている子は少なくなったようだ。楽しそうに歌う子が増える。 保育者の動き、歌う様子に目をやりながら歌っている。 ・生演奏も自動演奏もどちらも楽しそうではあるが、保育者が自動演奏を使って子どもと一緒に歌う場面のほうが、子どもの乗りがいいようだ。いっそう楽しくなり、ふざけていた子も動作をして歌うようになった。 ・保育者が前にいることにより、子どもの目線が定まるようだ。	
①2 ②6/7 ③保育時間中に自然発生で見られた、楽器を持ち出して遊ぶ場面 ④廊下で積木などで遊んでいた子達が、隣のきいろ組からカスタネットの音が聞こえてきたことで、「カスタネットをちょうだい」ともらいに来たり、あるところを知っている子は持っていったりして、廊下で叩き始めた。	・おもちゃのチャチャチャ ・他、これまで歌った歌	・歌うことや表現活動を一層楽しくするための方法の一つとして、楽器を使う機会を持ちたいと考えていた。	・知っている曲で、なおかつ持っているカスタネットが入りやすい曲が流れたことで廊下にいた子達が一斉に部屋に集まってきた。そして歌いながらカスタネットを叩いて楽しんでいる。 ・日頃伴奏に使っている自動演奏装置なので音色に違和感がなく、子ども達の乗りがいい。 （カセットデッキは音がよくない） ・担任が即興で弾けなくてもすぐに伴奏を流してあげられる。	・装置を簡単に移動することができないことが若干のデメリット？

そこで、録音してあった「おもちゃのチャチャチャ」を自動演奏装置で流　したところ、廊下にいた子ども 達が電子ピアノの前に集まり、曲にあわせて自由に叩いて遊び始めた				
①3 ②7/12 ③歌、身体表現 ゲーム ④降園前のひと時、担任と一緒に歌を歌ったり、遊んだりする。・「むっくりクマさん」は部屋が狭いのでゲームには不適切であるが、皆で遊ぶゲームにこのようなものもある、ということが分かったようだ。子ども達は「もっとしたい」と言っていた。（一週間ほど前に遊戯室で、口伝えで歌いながらしたことがある。）	3.2.1. ・むっくりくまさん（ゲーム） ・あそびうた（身体表現） ・せっけんさん	1．楽しく歌う。 2．本当の水遊びをしているつもりで歌を歌う。 3．遊び歌の歌詞をまだはっきり覚えていない段階で、『歌を歌いながら、みんなでゲームも楽しむ』という二つのことを同時に行い、楽しむ。	・担任が動きながら口伝えで歌う時よりも、自動演奏の伴奏が入り、子どもと一緒に身体を動かしながら歌った時の方が子ども達もいっそう楽しく歌を歌っている。。 ・何よりも子どもと一緒に身体を動かして遊ぶこと（ゲーム）ができることがメリット。	
①4 ②10/25 ③表現「おみこし」 ④午前中にもおみこしを担いで遊ぶ場面が見られたが一部の子であった。「見えていない」子にも一緒に「おまつり」の歌を歌ったり、おみこしを担ぐ遊びもあることを知らせたいと思った。そこで降園時間に皆で歌ったり遊んだりした。	歌・おおがたバス 表現と歌・おまつり	・歌を楽しく歌う。 ・ままごと遊びから生まれた「おみこし」を、担いで遊ぶ。	・伴奏があることによって歌にいっそう活気が出てきて、おみこしを担ぐのも楽しくなり、「わたしもしたい」「ぼくも！」と積極的になった。 ・自動演奏装置があると保育者の身体が自由になり、おみこしを担ぐ補助や他の楽器（タンバリン）を使って一層雰囲気を盛り上げることができた。	・自然発生的な午前中の遊びでは、自動演奏装置を子どもの動きに合わせて動かせないので利用はできない。
①5 ②12/12 ③表現 「ペープサート」 ④・以前に保育者が演じて見せたことのある音楽ペープサートに興味を持ち、作ってあった『絵』を動かして遊んでいる。自動ピアノを鳴らすと喜んで、「つぎは『ドングリ』にして」など曲の要求をしてくる。 ・そのうちに自動演奏が流れるピアノを鳴らしてみた子がいた。音が出て、足踏みを踏むと音が大きくなったり小さくなったりすることに気づき、それを面白がる。	・・・アイアイ・どんぐり・コンコンクシャン ・とんとんひげじいさん ・いぬのおまわりさん　・もみじ	・ペープサートを使い、歌に親しむ。 ・音楽ペープサートに興味を持った子どもたちの遊びを援助する。 （保育者側のねらい）	・ペープサートに音が添えられると、自分では歌いながら演じるという二つのことはできないので、ほとんど歌が出ていなくても、動かしているだけでも楽しくなる。 ・自動演奏と共に自分が弾いた音が出ることで、さも自分が弾いているかのような心地良さを感じているようだった。次々知っている曲をかけて、と要求して来る。 ・音があると、お客になった見ている子も楽しくなり、一緒に歌っていた。ただ自動ピアノでなくても、生ピアノでもそれは可能である。しかし、自動ピアノを使用することにより、担任も一緒にペープサートを動かしたり、お客になったりなど、身体を自由に動かせるメリットがある。	
①6 ②1/21 ③ピアノ奏者気分 ④・自動演奏装置を使ってピアノを弾いてみることに二学期末に興味を持ち始めた。（たまたま弾いてみたことが切っ掛けのようだ） ・三学期に入ってすぐから「ピアノを弾きたい」と遊びの一つに要求が出るようになった。ずっと付き添ってはいられないので繰り返しの使い方を教える。曲を変えたい時に保育者を呼ぶことを伝えた。	・・あかぐみたろう ・コンコンクシャン他	・機器や楽器に親しむ。	・この頃になると歌える曲のレパートリーが増え、自動演奏装置に入っている曲も知っている為、「次は～の曲にして」と要求が出る。日頃皆で歌っている歌を、歌いたい時に一人でも歌ったり、伴奏を聞いたりすることができるメリットがある。 ・楽器も持ち出して、伴奏に合わせ、好きに鳴らして楽しんでいる。 ・子ども達が日頃歌っている曲の伴奏を、自由に聞くことができることはとてもよいと思う。子ども達の興味の具合を知ることができる。	・子ども達がまだ小さいので、使い方を全面的に教えることはできず、近くにいて要求があると応えなければならない。 ・ボタンを押し間違えたようで、消えてしまった（録音のボタンを押してしまったようだ）曲もある。
①7 ②2/4 ③保育中自然発生的場面 表現「ペープサート」 ④自然発生的場面である。（場所は劇場ごっこができるように用意してあった） ・女児が３～４人でままごと遊びをしていたところから、劇遊びをしよう	・コンコンクシャン	・好きな遊びを仲良しの友達と一緒に、十分に楽しむ。	・子ども達だけでも繰り返し何度でもペープサートの遊びができる。	・曲を変える際には、まだ三歳児に任せるには難しい。 ・リモコンでパッと選曲できるといいが、この電子機器では手動で選ぶ為、子どもの要求に応える際にやや時間がかかりもどかしい。
①8 ②2/7 ③1．歌 2．ゲーム　No.1 3．ゲーム　No.2 ④1，2，とも 皆で楽しめるように集まりの時間を設定した。	1．歌伴奏・イップジャンプ 2．お手玉送り・どんぐり・まつぼっくり	1．新しい歌に親しむ。歌に合わせて身体を動かしてみる。 2．ゲームをしながらリズムを感じる。	・保育者が前に出ていることにより焦点が定まる。 ・担任も一緒に動いていることが子どもにとってはいっそう楽しい様子。こちらの動きや表情を見ている。 1・2： ・担任の身体があくからこそ子どもと一緒に動いたり、ゲームをしたりすることができ、自動演奏装置の大きなメリットであろう。カセットとは異なる音色である。	・リモコンがあると便利だろう。

きいろ組

①番号②日付③場面④状況	曲名	ねらい	メリット	デメリット
①1 ②5／29 ③リズム遊び（楽器） ④午前中の遊び・自然発生的な遊び。カスタネットやタンバリン、トライアングル等で思い思いに楽しんでいる時に電子オルガンを利用。	・おはなしゆびさん ・おはようのうた ・お弁当のうた	・いろいろな楽器に自由に触れて音色や表現することを楽しむ。	・ピアノを背にすることで、ピアノからの音の振動を楽しんでいる様子が伺える。Kは楽器で遊ぶ時は、毎回この場所に立っている。 ・朝、登園してくると誰からということなく、自然に楽器遊びが始まることが多い。	・OやKがカメラの動きを気にして、カメラを覗いたり触ったりしている。 ・「おはようのうた」になると楽器遊びが停滞。初めて聴く曲なので関心が薄れたようだ。 ・電子オルガンでは曲を連続して再生できないため、保育者がその度に操作する必要がある。
①2 ②6／12 ③リズム遊び（楽器） ④帰りの会・日常的な遊びの中で楽器への関心が高まっていたことから、集まりの会に全体での楽器遊びをとりいれたもの。	・おはながわらった	・カスタネットのもち方や扱い方を知る。 ・曲のリズムを体で感じる。 替え歌で遊ぶ。	・曲にあわせてカスタを叩いているうちにリズムが合う所があり、子供自身がその心地良さを感じたようだ。 ・替え歌にすることで、歌への関心が更にたかまった。 ・保育者が子供と対面して歌ったりリズム打ちしたりできるので、子供達の表情や言葉、動きが見えやすく、個々への対応がスムーズになった。	・電子オルガンでは曲の「部分の繰り返し」にすぐに対応できないので、折角歌に乗ってきたところで伴奏が止まってしまい、気がそがれることがある。
①3 ②6／18 ③リズム遊び（楽器・表現） ④午前中の遊び・自然発生的に生まれた遊びをみんなの遊びとして取り上げたもの。	・おはなし指さん ・かたつむり ・他の童謡	・歌やリズムを楽しむ。 ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう	・自動演奏は保育者の都合で（他児への対応）中断することがないため、遊びが続けられる。学級の殆どが好きな楽器を持ち　遊びを楽しんでいる。 ・「ミッキーマウスマーチ」では楽器を鳴らしながら机の周りを歩き出した。それまで遊びに参加しなかったHが自然に仲間に入ってきた。 ・「歩く」に加えて「スキップ」する子供が出てくる。 ・「となりのトトロ」のように皆が知っている曲では、自然にロずさみがあり、大いに楽しめた。 ・（歩くなど）体を動かすことでリズムに乗りやすくなる。 ・Kは曲のテンポを感じ、トライアングルを小刻みに叩いている。 ・遊びは約30分間続いた。十分に満足の様子。 ・自動演奏にすることで、教師が通して関われなくても遊びを楽しむことができた。 ・演奏に厚みがあり、パレード曲などは実際の楽しい雰囲気が再現できる。 ・自動演奏の場合、保育者が歌に手振りをつけて一緒に遊べる。 ・歌「おはなし指さん」「かたつむり」を手で振りをつけながら歌いだす。	
①4 ②10／18 ③リズム遊び（楽器） ④帰りの会・楽器遊び	・チューリップ ・蝶々 ・大きな栗の木下で　他	・曲からリズム（拍）を感じとる	・自動演奏を使って「どんぐり」「おきな栗の木下で」を保育者と一緒にリズム打ちすると、次第にリズムが揃っていった。安心した表情がみられる。 ・自動演奏で一緒にリズム打ちすると次第にスムーズになっていった。保育者を真似ることでリズムが一定になることから、視覚的な要素も大切と思われた。	・生伴奏では保育者が頭でリズムを取っていると、同じ様に頭を振る子供がいた。 ・生伴奏では子ども達が思い思いにカスタネットを打つので、初めはリズムがそろいにくい。
①5 ②11／19 ③表現（劇場ごっこ） ④昨日の遊びの続き・劇場ごっこ	・やぎさんゆうびん ・きのこ ・ハリケンジャー	・劇場ごっこ（ペープサート・歌・踊り）を楽しむ。	・ペープサートは昨日の降園時の約束だったので、すぐに舞台作りが始まった。楽しみにしている様子。 ・演じることに期待し、自分の出番を楽しみに待っている。 ・劇場ごっこに発展。「やぎさんゆうびん」だけでは飽きてくる。ハリケンジャーなどのアニメの歌が出てくる。 ・保育者が他で遊んでいる子供達に対応していても自動演奏であれば、遊びが中断しない。	